最後に

皆様お元気でしょうか？前号の３８号で、私が出前を頼もうとした飲食店の対応について、悪かったことを浅草の所為の書き方をしてしまったこと、浅草神社のスロープについて、自分の車いすを基準として感想を書いてしまい、読者様から御注意を受けました。申し訳ございませんでした。以降慎重に言葉を選んで書いていきたいと思います。

さて令和６年度の秋ビッグサイトで、例年通り国際福祉機器展が行われました。お馴染みの手動車椅子は、利用者に合わせたいろいろな形があり、電動車いすも、体の体制を自分で直せる機能が付いた物が、いろいろなメーカから出来たようです。車いすの役割は、ただ利用者の移動手段として使うのではなく、普段の生活、例えば、食事をする時、勉強、仕事、就寝前に寝床までの移動手段など、いろいろな用途に対応するのが２１世紀の車いすの姿ではないでしょう？シートが上下に動くリフト機能や、体を倒せるリクライニング機能が付いている電動車いすが展示されていました。私もそういう機能の付いた電動車いすに乗り換えて快適な生活を送れています。

ところで特集記事で台東区のことを書かせてもらいましたが、まだまだこの台東区にはいろいろな地名がいっぱい残っています。例えば、今も残っている町名で花川戸（はなわど）があります。その花川戸に大口屋治兵衛（おおぐちやじへい）という江戸時代に実際にいた札差商人。今でいうステッカー、千住札を作る職人だったそうです。その治兵衛は豪商（大事業家）で、侠客（きょうきゃく＝強きをくじく人）だったそうです。その治兵衛を９代目市川歌右衛門が、歌舞伎で花川戸助六として演じたそうです。

もう一つ花川戸にある花川戸公園には、姥ケ原池跡（うばがはらいけあと）があり、その周辺は浅茅ヶ原（あさぢがはら）と呼ばれている所がありました。その浅茅ヶ原の一軒家に、老婆（姥ケ原の婆＝ばば）と娘が住んでいてそこに、よそから来た旅人を娘に誘わせて、婆と住んでいる家に泊めます。婆の目的は石枕（いしまくら）で旅人を殺し、持っていた金品を奪う目的でしたが、そんな婆の行いを娘が注意していましたが、婆は聞く耳持たず旅人を殺してしまう。そうやって婆に殺された旅人は何人もいましたが、いつものように、娘が招き入れた旅人を婆は殺したのですが、ところが婆に殺されたのは旅人に変装した娘だったのです。その事に気づいた婆は、ショックを受けて、池に身を投げたという事です。これが花川戸の浅茅ヶ原の伝説でした。私自身花川戸は、浅草に近いのでそんな伝説があるとはしりませんでした。まちの名前の由来は花の名所である、向島の戸口と言わ